

令和4年度 仁王地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和4年7月15日(金)

No	懇談事項	説明	担当部課名
1	<p>「医大跡地活用の現状と本町周辺の活性化策について」</p> <p>① 医大跡地の活用について、仁王地区では過去3回(平成26年度、平成28年度、平成30年度)のまちづくり懇談会の懇談テーマにしながら跡地活用のあり方について意見交換を行ってきた。また、市への要望事項にも、本町第一町内会、内丸第一町内会、日の丸町内会から、医大跡地活用の展望や内丸地区、本町周辺市街地の活性化策について要望するなど、仁王地区の大きな地域課題となっている。今回は、これらの経緯も踏まえながら、「4者会議」の具体的な進捗状況と南正昭岩手大学教授を委員長とした「岩手医科大学跡地活用検討懇話会」で出された様々な提言等について詳細にご教示いただきたい。</p> <p>② 盛岡バスセンターや中津川と盛岡城跡跡公園の間にパーク PFI 構想が進んでいるとのことである。その構想が進んでいる地区に隣接しているのが医大跡地も含めた本町周辺商店街である。かつて、名須川町を</p>	<p>① 岩手県・盛岡商工会議所・岩手医科大学・盛岡市の四者による「岩手医科大学跡地活用検討会議」は、平成31年3月13日に第4回の会合が開催されて以降、新型コロナウイルス感染症の影響などにより中断していますが、事務レベルでは情報共有・意見交換を続けており、岩手医科大学では新しい内丸メディカルセンターの整備などと合わせ、医大跡地の活用についても検討が進められていると伺っています。</p> <p>また、「岩手医科大学跡地活用検討懇話会」の提言については、平成29年3月8日に跡地活用検討会議に対する提案書としてとりまとめられており、跡地活用の基本コンセプトとして、「世代をつなぐ居住環境をつくる」「にぎわいと交流環境をつくる」の2点が掲げられています。具体的には、都市機能の更なる向上と住環境の整備、安全・安心、子育て支援の充実、にぎわいの創出と交流拠点としての機能整備、国際化への対応と未来を担う人材の育成、彩のあるまちづくりや観光機能の充実が挙げられています。</p> <p>本町周辺のハード整備につきましては、令和3年9月に策定しました新たな盛岡市都市計画道路整備プログラムにおいて、都市計画道路「本町通天神町線」の旧国道455号交差点～上の橋手前までの約328mの区間について、令和12年度</p>	<p>市長公室 企画調整課</p> <p>建設部 交通政策課</p>

令和4年度 仁王地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和4年7月15日(金)

No	懇談事項	説明	担当部課名
	<p>通る寺町通りは、道路が細く通行に不便を来しているが、周辺の寺の住職の理解を得て土地を寄贈してもらい、現在の優れた景観と広い道路で円滑な交通の流れの通りへと変化していった経緯もある。このような過去の事例も参考にしながら本町周辺のハード面とソフト面での新たな活性化策を交流したい。</p> <p>上記のように、岩手医大跡地活用を中心とした仁王地区活性化策について具体案があるのか。また、話し合いの進捗状況、そして、地元地域はどのように関与できるのか、現在の時点での説明をいただきたい。曖昧ではなく。</p>	<p>までに新規に事業着手を目指す路線として位置付けたところであります。</p> <p>岩手医大跡地活用を中心とした仁王地区の活性化策について、現時点でお示しできる具体案はありません。</p> <p>市では令和3年度に、内丸地区に立地する官公庁や企業、岩手医科大学、盛岡商工会議所等で構成する懇話会を設置し、各委員の意見を踏まえ、内丸地区のあるべき将来像と、その実現に向けた取組の方向性を「内丸地区将来ビジョン」として取りまとめました。</p> <p>令和4年度からはこのビジョンを基に、土地利用方針、景観、交通等に関する具体的な整備の方向性を定める「(仮称)内丸プラン」の策定に着手しています。</p> <p>プランの策定に当たっては、内丸地区に立地する官公庁や周辺の企業、住民のほか、広く市民と意見交換を重ねて合意形成を図ることとしています。</p>	<p>市長公室 企画調整課</p>